

令和4年6月20日（月）
国土交通省関東地方整備局
港 湾 空 港 部

記者発表資料

横浜港本牧ふ頭BCコンテナターミナルにおいて、
CONPAS[®]の試験運用を実施
～予約情報を活用した事前荷繰りにより、コンテナヤード内の荷役を
効率化させることを目的とした試験運用の実施～

関東地方整備局では、国際コンテナ戦略港湾京浜港の国際競争力強化を図るため、コンテナ輸送の効率化、生産性向上に向けた取組みを推進しています。その一環として、コンテナ輸送に関するリアルタイム情報の共有・活用により、セキュリティを確保しつつゲート処理、輸送の効率化等を目指し、横浜港南本牧地区及び本牧地区においてCONPAS[®]を活用したコンテナ輸送効率化試験運用を8回行い、令和3年4月1日から横浜港南本牧ふ頭コンテナターミナルでは、CONPAS[®]の本格運用を開始しています。

今般、関係者の協力のもと、横浜港本牧ふ頭BCコンテナターミナルにおいて、CONPAS[®]を活用したコンテナ輸送効率化の試験運用を行いますので、お知らせします。

【CONPAS[®]試験運用の概要】

試験運用期間：令和4年6月22日（水）～令和4年7月5日（火）

※但し、平日（月～金）とする

試験運用実施場所：横浜港本牧ふ頭BCコンテナターミナル

実施内容：予約情報を活用した事前荷繰りにより、コンテナヤード内の荷役を効率化させることを実現するための運用方法を確立する

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ・神奈川建設記者会・横浜海事記者クラブ・物流専門紙・その他専門紙

問い合わせ先

関東地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室

室長 両宮 康良（あめみや やすよし）

課長補佐 近藤 貴洋（こんどう たかひろ）

電話 045-211-7437

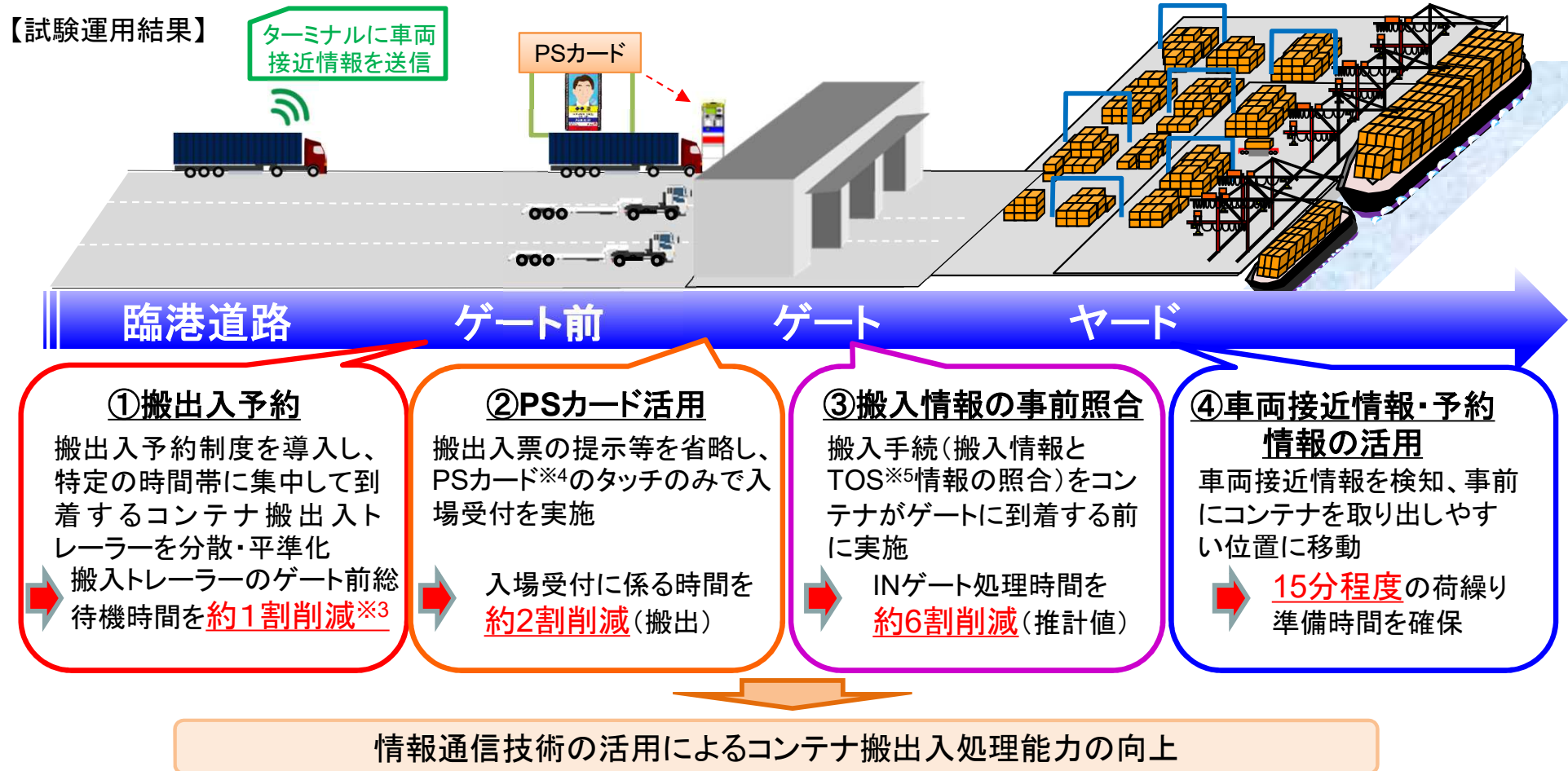
(1) 試験運用の目的

- 予約情報を活用した事前荷繰りにより、コンテナヤード内の荷役を効率化させることを実現するための運用方法を確立する。

(2) 実施概要

- 期 間 : 令和4年6月22日(水)～7月5日(火)
※但し、平日(月～金)とする
- 場 所 : 横浜港本牧ふ頭BCコンテナターミナル
- 協 力 : 横浜港本牧ふ頭BCコンテナターミナル
神奈川県トラック協会海上コンテナ部会
- 対象コンテナ : 実入り搬出のみ (ドライ/リーファー)
- 参加店社 : 神奈川県トラック協会海上コンテナ部会加盟のCyber Port・COMPAS利用登録店社
※令和4年4月末時点で加盟店社のうち58店社がCyber Port・COMPASに登録

- COMPAS※1は、コンテナターミナルのゲート前混雑の解消やコンテナトレーラーのターミナル滞在時間の短縮を図ることで、コンテナ物流の効率化及び生産性向上の実現を目的としたシステム。
- ゲート前混雑が深刻化する中、情報通信技術の活用により、ゲート手続やヤード内荷役作業の効率化を実現するため、横浜港において試験運用を実施。
- 横浜港(南本牧)で令和3年4月より本格運用※2を開始。横浜港での運用結果を踏まえ、今後他港へも拡大予定。



※1 COMPAS: Container Fast Pass の略

※2 「搬出入予約機能」「PSカード活用した受付機能」「搬入情報の事前照合機能」を常時運用すること

※3 搬入トレーラーの14%が COMPASで予約を行った場合

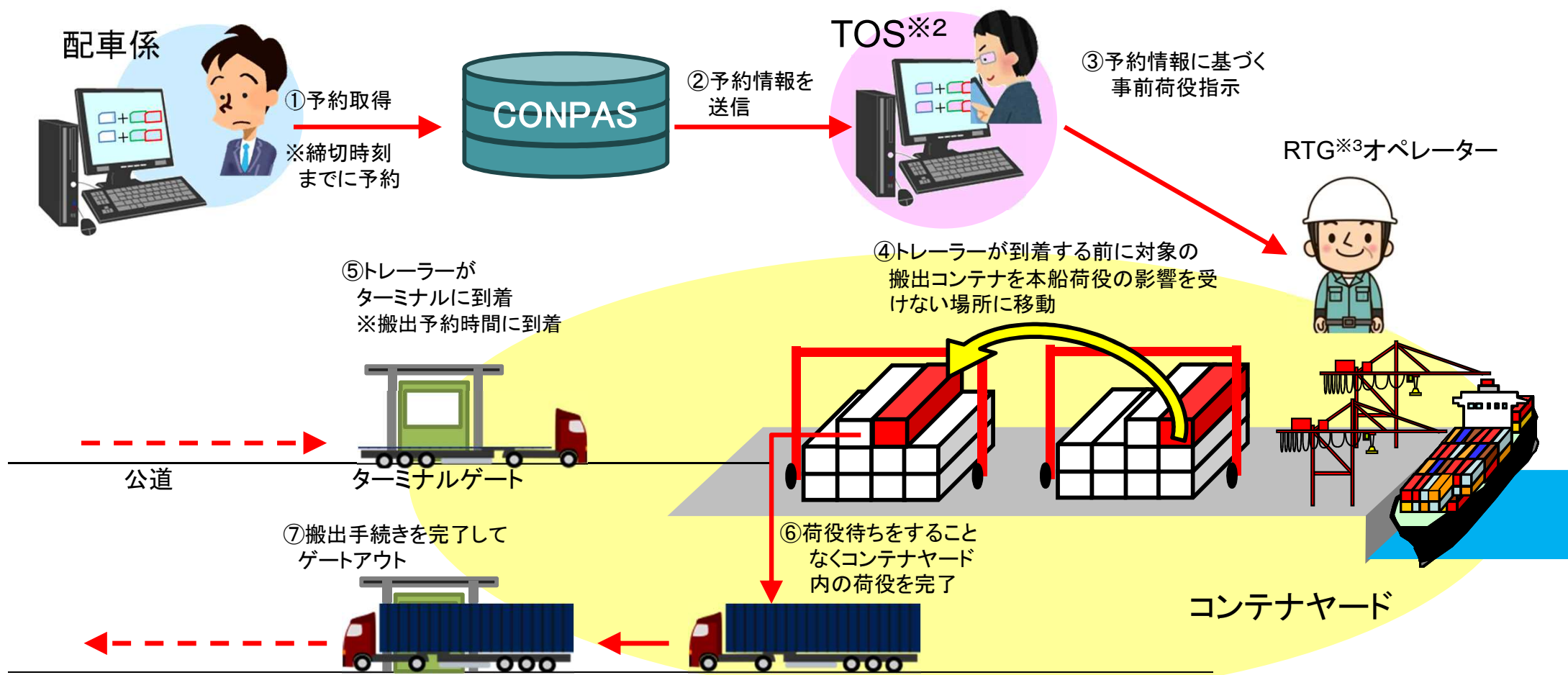
※4 Port Security カードの略。港湾の制限区域への人の出入りを確実かつ円滑に管理するために国が発行するICカード

※5 ターミナルオペレーションシステム

試験運用の概要 ~予約情報を活用したコンテナヤード内荷役効率化のイメージ~

- CONPAS※1に登録された予約情報を利用して、トレーラーがコンテナを引き取りに来場する前に、搬出対象のコンテナを本船荷役の影響等を受けない場所へ移動。
- 本船荷役の影響や不要な荷繰りを回避することで、コンテナの円滑な引取りが可能となり、コンテナヤード内のトレーラー滞留時間の短縮を実現。

◆コンテナヤード内の荷役効率化イメージ(実入り搬出)



※1 CONPAS: Container Fast Pass の略

※2 TOS: ターミナルオペレーションシステム

※3 RTG: "Rubber Tired Gantry crane"の略。RTGはコンテナターミナルにおける荷役機械の一つで、コンテナヤード内のコンテナを運搬するときに使われる門型のクレーン。

- 関東地方整備局において、ゲート処理等の効率化、セキュリティの向上等を図るためのシステム「CONPAS※1」を開発。
- 2017年度より試験運用を行い、これまでに、搬出・入コンテナのゲート入場の事前予約、IC付身分証(PSカード※2)による入場、外来トレーラーの接近情報を利用した事前荷役のシステムが完成。
- 2019年2月から3月に、搬入票の電子化に関するシステムの動作確認を実施。4月から5月に、繁忙期における事前予約システムの試験運用、6月から7月に、参加店社を拡大した事前予約システムの試験運用を実施。
- 2019年11月に試験運用実施ターミナル、参加陸運店社等を拡大した試験運用を実施。
- 2020年10月に参加陸運店社を拡大した試験運用を実施。
- 2021年4月に南本牧において、本格運用※3を開始。

試験運用の経緯

【実施場所】

横浜港南本牧コンテナターミナル(第1回～第8回)
本牧BCコンテナターミナル(第7回～第8回)

【実施期間】

- 第1回 2018年1～3月、第2回2018年8～9月
 - ・PSカード入場・事前荷役システムの試験運用
- 第3回 2018年11～12月
 - ・事前予約システムの試験運用(搬出コンテナ)
- 第4回 2019年2～3月
 - ・事前予約システムの試験運用(搬入コンテナ)
 - ・搬入票電子化システムの入力端末の動作確認
- 第5回 2019年4～5月
 - ・繁忙期における事前予約システムの試験運用(搬出・入)
- 第6回 2019年6月～7月
 - ・参加陸運店社を拡大した事前予約システムの試験運用(搬出・入)
- 第7回 2019年11月
 - ・試験運用実施ターミナル、参加陸運店社を拡大した事前予約システムの試験運用(搬出・入)
- 第8回 2020年10月
 - ・参加陸運店社を拡大した事前予約システムの試験運用(搬出・入)

【参加者】

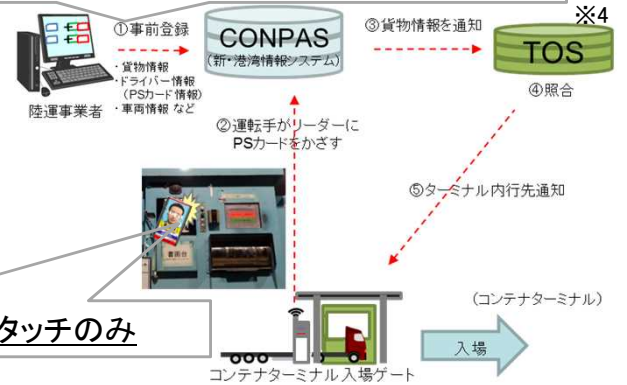
南本牧コンテナターミナル、本牧BCコンテナターミナル
神奈川県トラック協会海上コンテナ部会

CONPASを活用した搬出・搬入ゲート手続きの効率化の概要

○ドライバー情報(PSカード情報)を活用し、セキュリティを確保しつつドライバーの誤入力を防止、ゲート処理時間を短縮

○事前予約により、ゲート前混雑を緩和(搬出・搬入コンテナ)

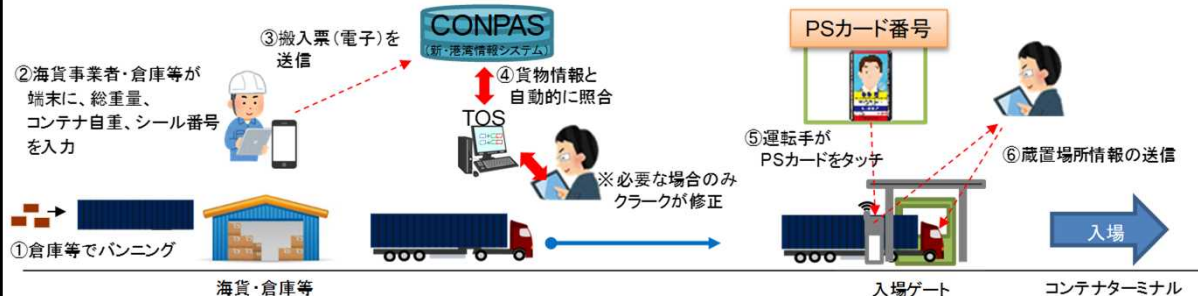
入場時間の予約を行って並ぶことなく入場



貨物情報の手入力→PSカードのタッチのみ

CONPASを活用した搬入票の電子化による搬入ゲート手続きの効率化の概要

○搬入票を電子化し、コンテナ到着前に搬入票情報をコンテナターミナルに通知し事前処理することにより、ゲート処理時間を短縮
※試験運用では、搬入票電子化入力端末の動作確認を実施。



※1 CONPAS: Container Fast Pass の略

※2 Port Security カードの略。港湾の制限区域への人の出入りを確実かつ円滑に管理するために国が発行するICカード

※3 「搬出入予約機能」「PSカード活用した受付機能」「搬入情報の事前照合機能」を常時運用すること

※4 ターミナルオペレーションシステム